

設立趣意書

現在の子どもを取り巻く環境は、少子化、核家族、地域の希薄化による「人とのつながりの減少」、都市化、実態を感じさせ難い情報化社会、保護者の長時間労働による「自然や暮らしの体験の場の減少」、また経済活動の拡大とともに、効率やコスト意識、結果を急ぐ風潮が子育ての場にも持ち込まれ「子ども自身が自ら育つ多様な育ちの時間の減少」という変化の流れがあり、子ども達に深刻な影響を与えています。「少子化対策」と称した子育て支援策も打ち出されていますが、残念ながら子ども達の育ちの問題の解決には至っていない現状です。

このような中であって子育ての中で、子育てのそばにいるものとして「育ちの豊かさ」とは何か、という事を求める者同士が集まり、その答えを「地域の自然、社会、文化との関係性」の中に見出す試みと実践が芽生え、2003年に特定非営利活動法人 うていーらみや が設立されました。うていーらみや は、沖縄の自然と文化を通じた教育と療育を研究・実践し、地域との連携、異文化との交流を図り、広く公益に貢献することを目的とし、これまでわらべうたの伝承活動や沖縄の里山ツアーなどを通じ地域の子育て、子育てを支えてきました。多くの方々の賛同と協力のもとに、2011年度より障害児通所支援事業所 Atelier みらくの運営を、2013年度より那覇市の大名児童館の指定管理を、と発展し現在に至っております。2009年には住友生命主催「未来を築く子育てプロジェクト」子育て支援活動 未来賞を受賞し、2011年には「子ども若者育成・子育て支援功労者表彰」内閣府特命担当大臣表彰を受賞しました。

(仮称)にぬふぁ保育園 はこれまでの うていーらみや での社会的責任を果たす事と、活動を通して見続けた子ども達の育ちと親子の形、取り巻く地域からの学びを更に広く実践、発信する事を目的として設立されるものです。

私たちは遊びを通じた育ちを支援とする児童館管理、多様な育ちを見守る障害児通所支援事業に加え、子どもたちの日々の暮らしを支える保育所運営をし、自ら暮らす地域の自然と文化の中で、子どもも大人も主体的に学び合い、育ちあう豊かな関係性を生み出す「子育て文化」を創造していく事を目指します。

「子どもの最善の利益」を常に考え、子ども達自身の育ちゆく力を目当てとして進む法人として、(仮称)にぬふぁ保育園 の設立を目指します。

2016年 (仮称)にぬふぁ保育園 設立準備委員会委員長
仲本 千佳子